

ア行 月-頁

青木博通 ……5-13
 秋山 高 ……3-66
 阿部亮敦 ……5-87
 石井茂樹 ……4-61・106, 6-22
 石埜正穂 ……2-48
 石橋良規 ……9-3・9
 磯田直也 ……12-122
 板垣忠文 ……4-76
 伊丹 勝 ……1-90
 板谷康夫 ……8-2
 一瀬信敏 ……2-48
 伊藤寛之 ……9-85
 稲木次之 ……6-3
 稲葉良幸 ……6-1, 10-53
 井上 正 ……6-87
 井上典之 ……11-87, 12-96
 井上 洋 ……4-113
 岩崎博孝 ……6-114
 岩下卓司 ……10-81
 岩原将文 ……8-22
 碓氷裕彦 ……2-33
 大倉桂子 ……4-48
 大倉宏一郎 ……7-101, 11-118
 太田 司 ……8-16
 大滝 均 ……3-36, 9-61
 小笠原健治 ……6-101
 岡田吉美 ……5-50, 8-89
 奥村直樹 ……9-17
 奥山尚一 ……7-27, 12-1
 小野 功 ……6-43

カ行

影山光太郎 ……9-45
 加藤浩一郎 ……1-77
 樺澤 聡 ……9-1
 茅野直勝 ……4-90
 加山涼子 ……8-9
 川崎 仁 ……6-86・95
 川田 篤 ……11-24
 川本真由美 ……4-102
 木村勢一 ……6-117
 来栖和則 ……11-113, 12-89
 肥塚雅博 ……8-1
 國生泰広 ……9-38
 古関 宏 ……6-22
 小谷 武 ……8-124
 小谷悦司 ……3-6
 後藤陽子 ……4-83

小林 聡 ……5-41
 小林 保 ……5-1
 小林哲男 ……6-6
 小見山泰明 ……3-51
 小山 靖 ……9-54

サ行

齋藤秀美 ……5-24
 境 正寿 ……5-79
 坂井順子 ……3-21
 佐々木 康 ……12-137
 笹山温子 ……6-111
 佐藤辰彦 ……11-74, 12-56
 佐藤富徳 ……1-5
 真田 有 ……10-9
 塩谷 信 ……7-54
 柴田和雄 ……11-87, 12-96
 柴田勝隆 ……6-5
 下道明久 ……6-33
 信太明夫 ……5-88
 須川成利 ……1-77
 鈴木健治 ……7-80
 8-34, 11-39
 鈴木利之 ……6-7
 鈴木正次 ……7-101
 鈴木百合子 ……8-12
 鈴木隆一 ……7-11
 須田浩史 ……3-26, 11-39

タ行

高瀬彌平 ……3-83, 8-108
 9-73, 10-92
 田中 勲 ……4-31
 田中拓人 ……4-114
 田邊 隆 ……6-4
 田辺 徹 ……1-65
 谷 義一 ……1-1
 帖佐 隆 ……5-33
 丁 泰豪 ……3-79
 寺田雅弘 ……4-54
 遠山光貴 ……8-81
 徳重貴久 ……5-5
 富澤 孝 ……9-12

ナ行

永岡重幸 ……11-106
 中島 淳 ……4-2
 中嶋 誠 ……1-3
 永井 豊 ……4-113, 9-86

永田美佐 ……9-36
 長野正紀 ……9-25
 中村 閑 ……6-50
 西村雅子 ……7-28
 西脇民雄 ……7-1, 12-55
 野本可奈 ……5-84

ハ行

萩尾保繁 ……7-65
 長谷川智子 ……8-5
 羽村行弘 ……5-4
 伴 誠一 ……11-117
 廣瀬隆行 ……7-16
 藤原稲治郎 ……10-90
 船橋定之 ……6-5
 保科敏夫 ……5-68, 10-3
 星野 昇 ……11-117

マ行

前 直美 ……5-87
 町田健一 ……10-55
 松下 正 ……10-43
 松田正道 ……11-15
 松村修治 ……3-27
 丸島儀一 ……1-6
 丸山温道 ……6-106
 石田俊介 ……4-32
 宮永博史 ……2-37
 森岡 誠 ……7-72

ヤ・ラ・ワ行

山尾昭一郎 ……3-56
 山川茂樹 ……6-49, 10-1
 山口健司 ……4-96
 山口洋一郎 ……9-41
 山田武樹 ……1-85
 山本格介 ……6-4
 横田裕弘 ……4-40
 吉井一男 ……10-30
 吉田 哲 ……11-1
 吉田芳春 ……3-17
 吉延彰広 ……9-29
 若林 擴 ……3-35
 5-86, 11-72
 渡部厚夫 ……9-69
 渡辺弘司 ……9-85

外国

デイビッド ポウズ ……11-11
 Gerald Numrich ……11-106

委員会・団体

石川県商工労働部産業政策課
 ……………12-30
 岩手県商工観光労働部科学・
 ものづくり振興課 ……12-9
 愛媛県企画情報部管理局企画
 調整課……………12-43
 大分県商工労働部産業技術
 開発室……………12-50
 鹿児島県商工労働部産業立地課
 ……………12-52
 神奈川県企画部政策課科学
 技術室……………12-25
 高知県産業技術部知的財産課
 ……………12-45
 埼玉県産業労働部新産業育成課
 ……………12-20
 滋賀県商工観光労働部新産業
 振興課……………12-33
 鳥根県商工労働部産業振興課
 ……………12-41
 東京都知的財産総合センター
 ……………12-22
 東京弁護士会知的財産権法部
 ……………5-49, 6-50, 7-72,
 8-22, 9-17, 11-24, 12-122
 栃木県商工労働観光部工業
 振興課……………12-18
 鳥取県商工労働部産業開発課
 ……………12-38
 長崎県科学技術振興局科学技術
 振興課……………12-47
 長野県商工部ものづくり振興課
 ……………12-28
 日本弁理士会, 日本弁護士連合
 会, 日本公認会計士協会
 ……………10-67
 日本弁理士会意匠委員会
 ……………3-1
 日本弁理士会近畿支部弁理士
 制度普及委員会……………2-1
 日本弁理士会商標委員会
 ……………4-5

日本弁理士会ソフトウェア 委員会……………9-36・38, 10-95, 11-113, 12-74	日本弁理士会著作権委員会 ……………4-90・96・102・106 6-86・87・95・101 6-106・111・114・117	福島県商工労働部産業創出 グループ……………12-16	和歌山県商工観光労働部商工 政策局産業支援課……………12-35
日本弁理士会知財流通流動化 検討委員会……………3-26・27 4-83, 5-79, 6-63 7-80, 8-34, 9-25 10-81, 11-39, 12-137	日本弁理士会特許委員会 ……………9-3・9	北海道企画振興部科学 IT 振興局 科学技術振興課 ……………7-3, 12-7	
日本弁理士会知的財産価値評価 推進センター……………1-7	日本弁理士会バイオ・ライフ サイエンス委員会……………8-67	宮城県経済商工観光部新産業 振興課……………12-12	
	日本弁理士会不正競争防止法 委員会……………7-28・54・65	山形県文化環境部学術振興課 ……………12-14	
		夕張市農業共同組合……………7-19	

From Editors

編集後記

「知的財産推進計画 2007」では、地域の振興において、地域固有の知財を有効に活用すること、地域における弁理士の活用を図ることが必要であるとしています。今号の特集「地方自治体の知財への取組み」では、各自治体の取組みや、我々弁理士に対する期待などを知ることができます。3年前にも同じ特集が組まれていますが、3年の間の活動により、発展や修正を経てさらに高いレベルを目指し、我々弁理士に対する要望も、さらにレベルの高いものになっているように感じました。

ご多忙の中、我々からの執筆の依頼に対して原稿を執筆して下さった地方自治体の担当部署の方々、また原稿の執筆には至りませんでした。原稿執筆を検討して下さった地方自治体の担当部署の方々に厚く御礼申し上げます。(KY)

都道府県の知財担当者が、関係者の知財への関心を高めるためにどう取組んでいるかの取組力が多数載っている。いずれも興味のある施策やアイデアが良く語られている。この施策やアイデアの成果も後日知りたいところである。いつかその成果を語ってもらう企画をして欲しいと思う。

編集という仕事は大変である。その記事の記載内容がパテント誌に載せても良いか否かのチェックから始まる。そのためには記事内容が理解できるか否かが勝負である。この読み込み(査読という)がなかなか容易ではない。自分の頭の回転の悪さにもよるところ大だが、第一に時間が掛かる。第二に目が疲

れる。第三に飽きて眠くなる。日頃、私が作成した明細書を査読して間違いをチェックしている者(補助者)の苦勞を知った気がする。とりあえず、12月号の編集を終えてホッとしている。(Y・H)

今回の特集は、知的財産基本法施行、「知的財産推進計画」のスタートから3年が経過し、各地方自治体における知的財産推進施策の成果や問題点などとともに、新たに「知的財産を活用した地域振興」や「多様で信頼できる地域ブランドの確立」への取り組みをご紹介いただこうとしたものです。結果として、前回特集号(本誌2004年11月号、特集「地方公共団体の知財への取り組み」)の寄稿数を越える数の地方自治体から貴重な内容の寄稿をいただき、無事発刊することができました。

ご多忙のなか貴重な時間を割いて原稿を執筆いただいた各地方自治体の担当者の皆様には、この場をお借りして心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。(A.N)

12月号の特集記事はいかがだったでしょうか。今月号では、各地方公共団体への執筆依頼を担当させて頂いたのですが、知財戦略強化の機運の高まりに対応する形で快く引き受けて頂いた団体も多く、非常に有意義な情報を集めることができました。私自身、パテント編集委員は初めてで戸惑うことも多かったのですが、この経験を生かし、多くの読者に満足して頂ける魅力あるパテント誌の作成に貢献してゆきたいと思います!

最後になりますが、ご協力頂いた皆様には改めて厚く御礼申し上げます。(J.S)

次号予告【2008年1月号】

「パテント」誌1月号の特集として、『環境技術』(課題)という特集を予定しております。「環境技術」の知的財産権問題に関する論説等を掲載する予定です。

「環境技術」は、地球温暖化問題とも相俟って、ますます重要となることが期待されると共に、知的財産権に関する特有の問題があることも予測されます。「環境技術」に携わる人は勿論、それ以外の人にとっても興味深いテーマと考えられます。どうぞご期待ください。